

# 期 授業改善のための振り返り

学年・教科

評価期間 年 月 日 ～ 年 月 日

自己評価 A：良くあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない

	項 目	自己評価
授 業 前	1 生徒の発達の段階や特性、既習事項の理解度、学びに向かう力など、生徒の実態把握ができた。	A B C D
	2 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスに配慮した指導計画を作成した。	A B C D
	3 単元や題材などのまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導計画を作成した。	A B C D
	4 評価の観点を明確にした、多様な方法による評価の計画を含んだ指導計画を作成した。	A B C D
	5 小学校や高等学校における指導との接続に留意した指導計画を作成した。	A B C D
	6 指導計画に基づいた授業方法の創意工夫や適切な教材・教具の準備や開発ができた。	A B C D
授 業 内 容 ・ 方 法	1 「何のために学ぶのか」「何ができるようになるか」を提示する場面を適切に設定し、見通しを持って主体的に取り組みさせることができた。	A B C D
	2 教科の特質を踏まえ、授業における学習方法と家庭での学習方法を具体的に指導した。	A B C D
	3 知識・技能の定着を図るとともに、学習課題への興味・関心・意欲を高め、分かる授業を展開した。	A B C D
	4 多様な言語活動を通して表現力を高めるとともに、新たな発想に気づき、自己の考えを広げ深める場面を適切に設定した。	A B C D
	5 習得・活用・探求という学びの過程の中で、教科の特質に応じた「見方・考え方」を身につけ、活用することができるように工夫して授業を展開した。	A B C D
	6 自ら課題を設定または選択して、主体的に探求していく課題解決型の学習場面を適切に設定した。	A B C D
	7 生徒の実際の状況を踏まえ、多様な学習活動を組み合わせて授業を展開した。	A B C D
	8 学習の過程や成果を振り返って次につなげる場面を適切に設定した。	A B C D
	9 I C T等の情報手段や教育機器を適切に活用した。	A B C D
評 価 の 工 夫	1 単元や題材などのまとまりを見通して評価の場面や方法を工夫し、多面的・多角的に評価した。	A B C D
	2 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにして学習意欲の向上を図った。	A B C D
	3 目標に準拠し、観点を明確にした評価を実施して、その妥当性や信頼性の向上を図った。	A B C D
	4 生徒による自己評価や相互評価を工夫し、生徒の学習意欲の向上を図った。	A B C D
授 業 後	1 評価の結果によって指導方法を改善するなどして指導の質を高め、指導と評価の一体化を図った。	A B C D
	2 努力を要すると考えられる生徒に補充的な指導を行った。	A B C D
	3 十分満足できると考えられる生徒にさらなる発展的学習へと導く指導を行った。	A B C D
その他	ワークライフバランスに留意して私生活を充実させ、豊かな気持ちで、笑顔で授業に臨んだ。	A B C D

※ 必要に応じてコピーしてご使用ください。だんざ出版ホームページ(danza-p.com)からプリントアウトすることもできます。

※ 学校において振り返り用紙が用意されている場合はそちらをご使用ください。

他の振り返り用紙も同様です。